

金融経済教育研究校 研究報告書

研究校名：茨城県立牛久高等学校

研究指定期間：令和 6 年 4 月～令和 8 年 3 月

目次

1. 研究概要
2. 実施スケジュール
3. 研究授業学習指導案
4. 公開授業・金融経済教育研究協議会
5. 生徒の感想
6. 教員の振り返り、感想

1. 研究概要

【研究主題】主体的にリスクに向き合う金融教育の在り方～ライフプランを軸に考える～

【研究目標】生徒の金融に関わる価値観は、家庭内の大人の価値観に左右されることが少なくない。しかし親世代の生きてきた時代と現代では様々な場面で変化がある。これからの時代を生き抜いていく生徒が自分自身の生活設計を考える際に、金融経済に関するリスクに対して主体的に考える機会を持ち、自分事として考えられる態度を養う。

【研究計画】

学年	教科	科目	内 容
1	家庭科	家庭基礎	・見えないお金、クレジットカードとの付き合い方 ・ローンを組むときのポイント ・多重債務になるのはどういう時？ ・家計管理～収入と支出のバランスを考える～ ・リスクに備える保険・年金 ・生活設計・マネープランゲーム ・悪質金融業者についてロールプレイで学ぼう ・一人暮らしを考えよう
2	数学科	数学 B	数列 複利計算
1	探究		・社会人講師(クレディセゾン)によるクレジットカードの学習
全学年	探究		・金融経済教育講演会「君のお金は誰のため」 講師：田内学

2. 実施スケジュール

年度	月	取組内容
令和 6 年度	6～8 月	研究計画立案（教科主任、管理職による協議）
	10～12 月	金融経済教育関連の授業（家庭基礎）
	11 月	1 学年全クラス対象 講師派遣授業（クレジットカード）
令和 7 年度	9 月	全学年対象 金融経済教育講演会
	11 月～12 月	金融経済教育関連の授業（家庭基礎）
	12 月	金融経済教育公開授業（1 年家庭科、2 年数学 B）・協議会

3. 研究授業学習指導案

①家庭科授業

対象：高校1年

教科・科目：家庭科 家庭基礎

教科書：家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

【単元名・題材名】第9章 経済生活を営む（経済生活）
第11章 これからの生活を創造する（生活設計）

【単元の目標】

- （1）消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解すると共に、生活情報を適切に収集・整理できる。
- （2）自立して消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察している。
- （3）消費者の問題に対して主体的に課題に取り組み、生活設計に生かそうとしている。

【単元（題材）の評価基準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の権利と責任を自覚して消費行動における意思決定や契約の重要性を理解している。 ②生活情報を適切に収集し整理できている。	①自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し表現できる。	①消費者の問題に対して主体的に課題に取り組み、自分自身の生活設計に生かそうと意欲的に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

時間	日時	学習内容	使用教材など	金融リテラシー・マップ
1	11月7日(金) 13:15～14:15	見えないお金、クレジットカードとの付き合い方 ・クレジットカードが借金である認識を持つ。 ・返済方法について検討できる。	・教科書 ・教育用DVD ・お金のキホン講義型教材	分類6 ○各種カードの役割や機能と使用上の留意点を理解し、適切に行動する態度を身に付ける。
2	11月11日(火) 11:50～12:40	ローンを組む時のポイント ・目的が限定されているロ	・お金のキホン講義型教材	分類6 ○ローンの金利とローン返済額との関係および金利負

		ーンと使い道が自由なキャッシングの利息の違いを知る。 ・返済金額や期間について考える。		担について具体例を通して理解し、適切に行動する態度を身に付ける。
3	11月12日(水) 14:25～15:15	多重債務になるのはどういう時？ ・クレジットカードを持つ前に多重債務について正しく理解する。	・教科書 ・お金のキホン動画型教材	分類3 ○多重債務問題の現状を知り安易な借入れを避ける。 分類6 ○多重債務問題の現状を知り安易な借入れを避ける。
4	11月18日(火) 11:50～12:40	家計管理～収入と支出のバランスを考える～ ・ニーズとウォンツを消費生活アドバイザーの立場で言語化していく学習活動を通して自分事として考える。	・教科書 ・お金のキホン講義型教材	分類1 ○家計の収支構造を理解する。 ○現代の消費生活の課題を認識して、消費者として適切な意思決定ができる。
5	11月21日(金) 13:25～14:15	リスクに備える保険・年金 ・社会保険と民間保険についてリスク管理の考え方について理解を深める。	・教科書 ・日本年金機構DVD「知っておきたい年金のはなし～20歳になったら国民年金～」 ・日本損害保険協会「明るい未来へTRY!～リスクと備え～」	分類2 ○年金や社会保険制度などを理解し、自分たちの暮らしの中での役割を考える。 分類5 ○病気や事故などのリスクが現実となった場合の家計の負担の大きさを認識し、リスク管理の方法を理解する。 ○不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いを理解する。 ○社会保険と民間保険との補完関係を理解する。
6 ～ 7	11月25日(火) 11:50～12:40 11月27日(木) 8:40～9:30	生活設計・マネープランゲーム ・20代から60代までの生活と支出についてゲームを通して体験的に学ぶ。	・J-FLEC「生活設計・マネープランゲーム」	分類2 ○働き方によって生涯所得に大きな差が生じることを理解する。 ○景気や経済政策と暮らしとの問題を理解する。

				分類4 ○生涯を見通して資産形成を行う必要性を理解する。
8 ～ 11	12月5日(金) 13:25～14:15 12月9日(火) 11:50～12:40 12月12日(金) 13:25～14:15 12月16日(火) 11:50～12:40	悪質金融業者についてロールプレイで学ぼう ・日本貸金業協会が注意を呼び掛けている悪質金融業者について主体的に学ぶ。	・ワークシート	分類3 ○契約や消費者信用などに関する消費者問題が生じる背景について理解し、問題の発生を回避する態度を身に付ける。 分類8 ○情報通信技術等を活用して、情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身に付ける。
12	1月13日(火) 11:50～12:40	一人暮らしを考えよう ・住居の単位とクロスしたカリキュラムとして実施。	(株)CHINTAI「高校生のためのお部屋探し&一人暮らしガイド」	分類2 ○将来の夢を実現するための現実的なステップや手段を考え、実践しようとする態度を身に付ける。

【指導と評価計画】

(1) 目標

悪質金融業者に接触してしまった時、どの様にして最悪の事態を回避するか疑似体験を通し主体的に考えるためにロールプレイの台本を作る。同じテーマに取り組む2つのグループでロールプレイの台本がテーマに即しているか確認し、各グループに戻ってストーリーにそったセリフとスライドを完成させ提出する。

(2) 準備・資料

ワークシート、悪質金融業の資料、パワーポイント資料、タブレット

(3) 本時の展開

学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等（・は指導上の留意点） ○は指導に活かす評価場面、◎は記録に残す評価場面
1 本時の学習課題を確認する。				・スライドを完成させ提出するまでが本時の課題になることを伝える。
2 前の時間に班で考えた設定と大まかなストーリーを確認する。	○			・提出先はクラスルームであることを伝える。 ・次の時間が発表会になることを伝える。 知：班ごとに登場人物とその特徴、金融業者の手口について資料から正しく読み取ってい

3 同じテーマのグループと適切な内容になっているか相互交換して確認する。			○	る。【ワークシート】 態：テーマごとに集まるよう場所を指定し、内容が正しいか相互に確認し、積極的に意見交流をしようとしている。【行動観察】 思：予防策や回避方法について場面設定を正しく行いワークシートに記入している。 【ワークシート】
4 各班でスライドを共同編集し、クラスルームに提出する。		◎	○	・内容を再検討する必要がある班が出た場合は、どこが適切でなかったのか確認させる。 ・班ごとにスライドを共同編集するよう促す。 ・クラスルームにスライド提出の課題を出しておく。
5 次の時間に発表会をおこなう予告をする。				・役割分担をしておくよう伝える。

参考資料

- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 家庭編 （文部科学省）
- ・家庭基礎 自立・共生・創造 （東京書籍）
- ・知って安心 金融トラブル防止のための Q & A BOOK 22 の疑問 （日本貸金業協会）

【授業の様子】

8 時間目	9～10 時間目	11 時間目
生徒同士の話し合いの様子	ロールプレイ台本作り	ロールプレイ発表
		

②数学科授業

対象：高校2年

教科・科目：数学科 数学B

教科書：数学B（数研出版）

使用教材：自作のワークシート

【単元名・題材名】数学B 数列 複利計算

【単元の目標】

- (1) 数列と複利計算の考え方のつながりを理解し、将来のライフプランを考えることができる。（知識及び技能）
- (2) 将来の進路と経済状況に基づき、必要な奨学金総額を論理的に見積もり、その根拠を説明できる。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 自身の進路と経済的課題として奨学金の問題を捉え、授業を通して得られた数学的知識と計算スキルを将来の計画に主体的に活用しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 奨学金の種類や学費の内訳など、基本的な金融知識を正確に理解している。 知② 複利計算や元利均等返済の計算原理を理解し、等比数列の和の公式を用いて正確に月々の返済額を算出できる。	思① 算出した返済額や総返済額、返済期間の結果を分析し、借入額や返済期間の違いが総利息に与える影響について、グラフや具体例を用いて論理的に考察し表現できる。	態① 奨学金や金利計算の学習が、自身の将来の経済設計に役立つという意識を持ち、意欲的に取り組んでいる。

【単元の指導計画】

時間	日時	学習内容	使用教材など	金融リテラシー・マップ
1	12月11日(木) 9:40~10:30	大学進学にあたり奨学金がいくら必要か？	ワークシート	分類6 ○住宅ローンや貸与型奨学金などのローンの仕組みを理解し、返済方法や金利、延滞時の影響について考える。
2	12月12日(金) 13:25~14:15	奨学金の返済計画を考えてみよう	ワークシート	分類2 ○進学、就職などに伴う支出や収入（大学での奨

				学金を含む) について試算し、それを参考にして進路選択について考える。
--	--	--	--	-------------------------------------

(1) 学習内容 (Contents)

本単元以前に数学Bの数列、数学IIの対数関数を学習している。しかし、概念の学習や計算がメインになってしまい、現実にはどのように活用できるかまで学習できていない。そこで今回は高校卒業後の進路選択において多くの生徒が直面する「学費と奨学金」の問題を題材として、数列や対数とのつながりを考える授業を行う。

(2) 資質・能力 (Competency)

この単元を通じて、以下の資質・能力の育成を目指す。

- ① 実社会の事象（金融・経済）を数学的に表現し、適切な公式を選択して計算を正確に実行する技能。
- ② 提示された借入条件や返済計画に対し、算出した利息総額や返済期間の違いを論理的に分析し、最適な選択肢を判断する力。また、その判断の根拠を数値とグラフを用いて明確に表現する力。
- ③ 自身の将来の家計や生活設計に関心を持ち、単元で学んだ数学的な分析手法を生涯にわたる金融リテラシーとして活用しようとする主体的な態度。

(3) 文脈 (Context)

本単元は、単なる数列や対数の練習問題としてではなく、生徒が卒業後に直面する可能性のある「人生で最も大きな借金の一つ」である奨学金のリアルな仕組みを、数学の力で解明することを目的とする。この学習を通して、「金利という見えないコスト」を数値化する力を養い、無計画な借入のリスクを理解することで、責任ある意思決定を行うための確かな金融リテラシーと数学活用能力を育む。

(4) 生徒の実態

今回は理系特進クラスを対象としている。クラスの生徒の多くは、4年制大学への進学を目指しており、数学への学習意欲も高い。

(5) 指導観

本単元では、生徒が有利子奨学金の仕組みを理解し、その返済計画の策定に等比数列と対数の知識を主体的に活用できることを目指す。

【指導と評価計画】

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
	1	課題 大学進学にあたり費用がいくらかかり、奨学金がいくら必要なのかを考える。 ・2時間の課題として、教員から「奨学金はいくら借りていくら返すことになるのか」と問いかけ、生徒は考え予想をする。 ・第1種、第2種奨学金の違いを学ぶ。			◎	思①ワークシート 態①ワークシート、行動観察

	・大学進学後にどれくらいお金がかかるかを調べ、ワークシートに記入する。 ・ワークシートの国立理系、私立理系、医療系専門学校の学費例、一人暮らしの必要経費等を参考に、自分はいくら奨学金が必要そうか考える。 ・借入金額、年利をふまえて卒業時の返済総額を求める。			
2 本 時	目標 奨学金の返済計画を考えてみよう。 ① 導入 「友人から1000円借りた。その際にトイチで貸してあげると言われたが、その場合1ヶ月後にいくら返さなければいけないか」を考える。 ・年利についての確認を行う。 ② 本時の問題の提示 問題 奨学金の返済期間と月々の返済額、返済総額を考えよう。 ③ 卒業時の奨学金総額を求める。 $(\text{卒業時の奨学金総額}) = (\text{月々の金額}) \times (\text{月利})^{48}$ ・計算シートを用いて、総額を求める。 ④ 返済期間を20年として、月々いくら払えば良いかを求める。 ・nヶ月後の残高は、等比数列の和を用いて求められることにつなげる。 ⑤ まとめ		○	前時の確認として取り組む。 借りた金額と金利の関わりを確認する。 ○ 態①既習事項とのつながりから考える。月ごとに金額に金利をかけることから数列の考えにつながるような声かけを心がける。 知① 導入①と同様【ワークシート】 思①【ワークシート、行動観察】 手が進まない生徒に対して、1ヶ月後、2ヶ月後・・・と具体例を提示し規則性を見つけ出す活動を行う。それが等比数列の考えにつながることを気づかせたい。

Ⅱ 参考資料

- ・『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 数学編 理数編』（文部科学省）
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

4. 公開授業・金融経済教育研究協議会

【日時】 令和 7 年 12 月 12 日（金） 5 限（13：25～14：15）

【対象学年及び参加者】

公開授業	対象者	40 名 44 名	1 年 家庭科：家庭基礎 2 年 数学科：数学 B
	参加者	10 名	他校教員、教育委員会指導主事、金融広報委員会担当者
金融経済教育 研究協議会	参加者	9 名	他校教員、教育委員会指導主事、金融広報委員会担当者

【当日スケジュール】

受付	13：00～13：20	控室（応接室）
公開授業	13：25～14：15	被服室、2 年 F 組
休憩	14：15～14：40	控室（応接室）
金融経済教育研究協議会	14：40～16：00	開会挨拶 金融広報委員会 副会長 授業検討・協議 指導助言 教育委員会 指導主事 謝辞 茨城県立牛久高等学校 校長 諸連絡・閉会

【公開授業の様子】

家庭科	数学科
	

5. 生徒の感想

①家庭科授業

- ・金融経済の授業があった日は、夕食の時間に親とクレジットカードやローンの話をして学びをさらに深められるので、自分としてはお金を使う時などの考え方が広がり充実した学びとなった。
- ・私はお金の使い方など、何もわかっていなかったが授業を通して何にお金を使い、何にお金を使わないか考えようと思うようになった。
- ・悪質金融業者の手口についてロールプレイを通して理解を深めていく授業が印象に残った。今の時代はたくさんの情報があるから、しっかり見極めていこうと思った。
- ・これまでローンについて全く考えたことがなかったが、いざ勉強してみて、ローンのリスクやメリットを知ることができ、今後の生活に生かせると感じた。
- ・大人になると考えることが増え、ローンや保険なども決めなくてはならないため、今後の人生には判断力・決断力が必要だということが分かった。
- ・一人暮らしの家計管理の授業を通して、これまで漠然と独り暮らしをしたいと思っていたが、一人暮らしの大変さを学んで、両親のありがたさを改めて考えることができた。
- ・「悪質金融業者に注意」の授業では、自分たちで調べてまとめたので印象深い。もしも危ない情報に接した時に役に立つと感じた。
- ・人生設計をゲーム形式で学ぶ中で、人生には色々な事が起こり、そのために様々な保険に入るなどリスク管理をする必要がある事を知った。今後の人生に生かしたい。
- ・借金は悪い物だと思っていたが、人生の中で大きな買い物をする際にはローンが必要になる場面がある事がわかり、借金についての考え方が変わった。
- ・自分の生活設計や住宅ローンなどについて考える機会はなかなかなかったので、とても新鮮で印象に残る授業だった。これからの生活に役立つことを沢山学べた。
- ・お金の管理の仕方について、これまで何も考えていなかったが、授業を通して将来が少し見えた気がして、良い学びになった。
- ・ライフプランゲームでは高収入なのに生活にゆとりがなくなり、収入が良いからと言って支出について考えない生活をしていると、家計が回らなくなる危険性がある事を理解した。収入と支出のバランスが大事であることが良く分かった。
- ・悪質金融業者のロールプレイの台本を自分たちで作る過程で、騙される人の心情と騙す側の手口について考えた。この経験を通して身近なところに危険があることを知ることができた。
- ・ライフプランを考える時には金融経済の事も具体的に考えることが必要で、将来を考える過程で今の自分が何をすべきなのか気が付くことができた。生活的にも経済的にも自立できる人になりたい。
- ・年金の制度について、ただお金を徴収されているだけだと思っていたが、将来の自分や自分の大切な人のためにできる事の1つだと気づかせてくれた。
- ・授業を受けるまで保険の事は何も分からなかったが、保険がどういうもので、保険に入ったほうが良い場合など具体的に学ぶことができ、今後の人生に生かしたいと思った。
- ・今まで「あることが当たり前だった生活」に予想以上のお金がかかることに驚き、ライフプランゲームを通して生活には稼ぐ力と管理する力が必要であることを学んだ。将来への不安もあるけれど、将

来について正しい知識を身に付けて、なるべく早い段階から計画緒立てしていくべきだと学ぶことができた。

②数学科授業

- ・奨学金制度があれば大学に行く時の経済的な負担が無くて良いと思っていたが、返済計画を計算してみたら、長い期間に渡って返済し続けることがわかり、奨学金も借金であることが理解できた。
- ・親は奨学金があるから大学進学しても大丈夫だと言っていたが、返済義務は親ではなく自分になることを知って、大学卒業後に毎月こんなに返済しなくてはならないとわかったので、借りるとしても大きな金額を借りないようにしたいと思った。
- ・これまでに学んできた数学が、自分の将来のシミュレーションに役立つことがわかって、数学の面白さが少しわかった気がした。金融経済に関することを自分で計算してみたいと思った。
- ・人に提示された金額だとローンを重くとらえることができず、返済計画を甘く考えがちになってしまうが、自分で算出することができると、自分事として捉えられることに気が付いた。なんとなくローンを組んだりするのではなく、自分で計算してよく考えたいと思った。
- ・計算は難しかったけど、自分の将来に関係することだから頑張って取り組むことができた。

6. 教員の振り返り、感想

①家庭科授業

1年間の授業の振り返りとして「1年間の授業の中で印象に残っている事や、充実した学びになっている事は何ですか？」という質問をおこなったところ、59.1%の生徒が金融経済教育に関係する内容を回答していた。自由記述回答から読み取った内訳は「ライフプランと家計」30.2%、「クレジットカード・多重債務」19.0%、「悪質金融業や詐欺」16.1%、「家計管理・ローン」11.2%、「一人暮らしの家計と物件探し」9.8%、「保険・年金」9.1%「金融教育全般・お金の大切さ」4.2%となっている。その他の保育や被服と環境、食物栄養、家族・家庭などの回答数と比較しても、明らかに優位な回答数であり、主体的に学び今後の人生で役立つ内容としえあいたことが伺える。特にライフプランと結びつけて授業計画を立てたことにより、最終的な振り返りの場面で個人のライフプランを立てる際に、これまで学んできたことをしっかりアウトプットできていた。ライフプランは最も自分事として捉えられることであり、そこに金融経済を絡めていくことで、生活に関わる長期的な経済計画について主体的に考えられるようになる

1年間の授業の中で、いかに金融経済教育を行うか考えた時に、自分自身が家庭基礎の柱として据えているライフプランしかない判断した。ライフプランこそ生徒が人生を自分のものとして捉え主体的に学ぶ仕掛けであることを実証したい思いもあった。家庭科は生活者の視点から家庭とその周辺の諸問題について学ぶ教科だ。生徒にとって家庭は最も身近なものであり、自分事としてとらえやすい教科の特性がある。つまり家庭科の視点から金融経済にせまる学びは、より実生活に生かせる学びにできる可能性を持っている。教える側も一生活者として日々を送っているので、自分自身が教材になることを自覚している。時に自身の生活を語り、私にも生徒の皆と同じようにライフプランがあることを示し、人生を歩んでいる生活者の一人として、授業を通して生活者としての仲間意識の醸成を意識していくことで、ライフプランを軸に1年間の授業を展開できると考えた。世の中の景気変動や世界情勢により私自身が

体験してきた就職や民間保険のエピソード、株式や債券などの金融商品を買う時の話は単なる知識の伝達ではなく、一人の人間の人生に起きたこととしてリアルに生徒に伝わっていた。この経験から自身の生き様から伝えていくという意識が家庭科教員として、一生活者としての私を成長させている実感を得た。

本研究は自身の教員としての歩みをワンステップ成長させ、それを生徒に還元できた貴重な経験となった。本研究の実施に際し、関係した多くの方々へ感謝申し上げたい。

2年間の研究において探究や数学科と連携した取り組みができたことも、本校の教育活動にとっては画期的なことであった。研究2年目は全校生徒を対象に田内学氏による「君のお金は誰のため」と題した講演会を実施した。教育とはすぐに結果が出る事だけではなく、生徒の長い人生を考えた時に、いつか気が付く時が来ると期待して生徒に伝えることも大切であることを再認識した。そのような意味においても田内学氏の講演内容は意味深いものであった。数学科からは生活の中で活かせる数学をテーマに教科教育を研究している先生の協力を得ることができた。クレジットカードのリボルビング払いや住宅ローン、奨学金などの返済について数学で算出できたら面白いのではないかと、予てから興味を持っていた。この機会に研究授業をお願いし、快く引き受けていただいた佐々木教諭には感謝している。

今後も生徒が自分自身の生活と人生に前向きに生きていくことを応援できる教員でありたい。このような振り返りの機会を与えてくださったことに感謝申し上げる。

②数学科授業

最初に金融経済教育の研究授業の依頼を受けた際は、具体的にどの様にできるかビジョンが湧かなかった。まず研究テーマ「主体的にリスクに向き合う金融教育の在り方～ライフプランを軸に考える～」と自分の「生活の中で活かせる数学授業」がクロスする部分はどこであるか考えた。自分事としてリスクになる事は何であろうか。借りる手続きをする時の多くは未成年だが、返済が始まる時は成人になっており、債務は親ではなく自分が負うもの。それは貸与型奨学金。これこそ生徒にとっては身近なテーマになると確信した。

1年次の家庭基礎でローンについて学んでいるが、自動車ローンや住宅ローンなどを例にしており、奨学金は扱っていないと聞いた。クラスのほとんどが大学進学を希望している理系2年生のクラスなら興味を持って授業に取り組めると考えた。金利について具体的な事例に基づいて計算する授業は自分にとって初めての取組であったが、実際に授業準備の取り掛かると、奨学金について知らなかったことが色々出てきて、自分自身の勉強にもなった。

高校の数学は難しいだけで、社会に出たら役に立つ場面がないと言われることが少なくなかったが、今回の研究授業の取組により、自信をもって「数学は社会に出てからも役に立つ」「数学は生活を支える」と言える材料を手にしたと実感している。今後も他教科と教科横断的な取り組みを進めるとともに、金融経済教育の視点を教科教育にいかしていきたい。